

熊本駅前東A地区市街地再開発事業

情報交流施設 基本計画(素案)

～ 訪れる人の好奇心をくすぐる
『**知の拠点**』の形成を目指して ～

平成18年12月

熊本市

目 次

情報交流施設の基本コンセプト	1 ~ 3
熊本駅周辺整備事業における東 A 地区の位置づけ	1 ~ 2
東 A 地区再開発事業の目的	2
東 A 地区再開発事業に期待される役割	3
情報交流施設の基本コンセプト	3
情報交流施設の目指す姿	4
情報交流施設の機能	5 ~ 13
「知の提供」	6 ~ 9
「知の発信」	10 ~ 11
「知の交流」	12
「知の蓄積」	13
情報交流施設の基本構成	14 ~ 18
情報交流施設の規模	14
施設の基本構成	14
施設構成イメージ	14
施設面積（案）	15
エリア配置動線計画（案）	16
フロア構成（参考例 1）	17
フロア構成（参考例 2）	18
情報交流施設の運営	19 ~ 21
運営方針	19 ~ 20
運営に関するスケジュール	21

情報交流施設の基本コンセプト

熊本駅周辺整備事業における東 A 地区の位置づけ

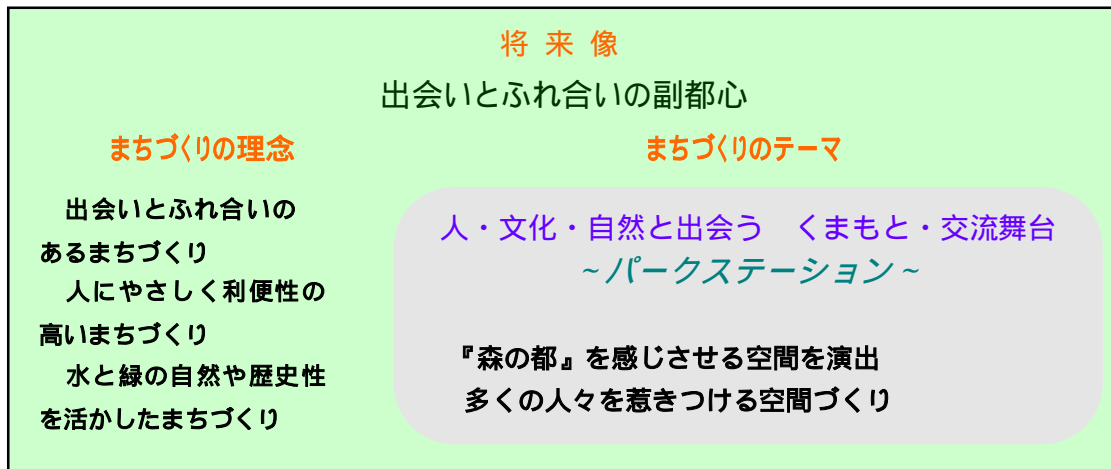
◆ 熊本駅周辺地域整備基本計画

熊本県並びに熊本市では平成 23 年春の九州新幹線鹿児島ルート¹の全線開業を見据え、平成 17 年 6 月に「熊本駅周辺地域整備基本計画」を策定、公表したところであり、熊本駅周辺が県都の陸の玄関口にふさわしい地域となるよう、現在、周辺整備に取り組んでいる。

この基本計画では熊本駅周辺地域の将来像を「**出会いとふれあいの副都心**」と位置づけるとともに駅東側地区を「**九州・熊本の情報発信の場**」、西側地区を「**新しい都市生活を創造する場**」、そして駅直近を「**多種多様な人々が交流し情報発信する拠点**」として整備する方針が示された。

また、基本計画の土地利用のゾーニングで、駅前の東側正面に位置する東 A 地区は、「**人と情報の交流ゾーン**」「**情報化社会を切り開くゾーン**」に位置づけられている。

熊本駅周辺地域の将来ビジョン



まちづくりのイメージ

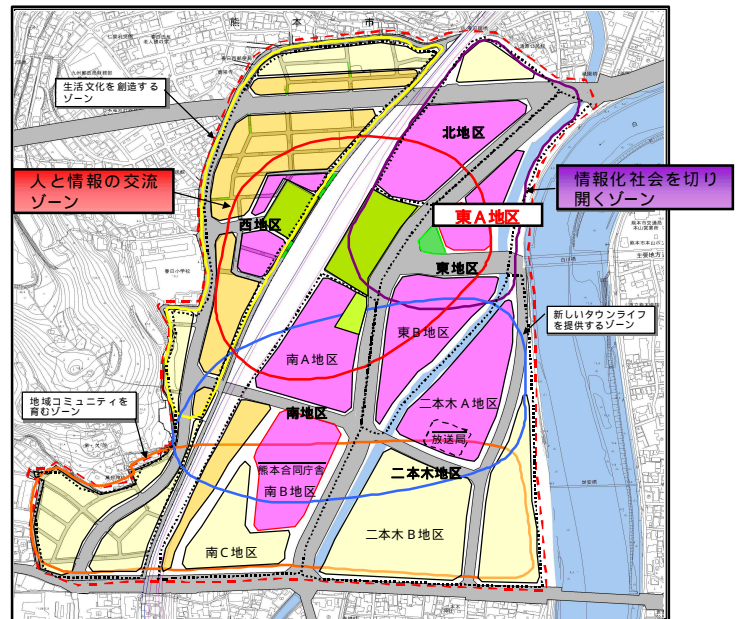


土地利用ゾーニング図

東A地区の位置づけ

人と情報の交流ゾーン

情報化社会を切り開くゾーン



東A地区再開発事業の目的

このような位置づけから、東A地区は情報発信の拠点、賑わい創出の交流拠点としての役割が求められている。

しかしながら、この東A地区の現状は熊本駅正面に位置し、熊本を印象付ける重要な街区であるにもかかわらず、老朽建築物や空き地が目立つ状態となっている。

したがって、九州新幹線鹿児島ルート全線開業までに副都心にふさわしい「**都市機能の充実**」と「**都市景観の向上**」を図るため、市が事業主体となって再開発事業を行うこととした。

◆ **都市機能の充実**

この再開発事業の核となるのが熊本市の公共施設であるが、これを呼び水として、今後、民間企業参画のための事業提案競技を行う予定である。

行政（情報交流機能）民間（商業・業務機能等）とが一体となって都市機能の充実を図り、熊本駅周辺の一層の賑わい創出に寄与する。

◆ **都市景観の向上**

また、この東A地区は魅力ある熊本駅周辺地域のまちづくりを進める上で重要な空間軸の一つである「アメニティ軸」に面している。

このアメニティ軸は万日山（緑）から駅前広場（賑わい）を通り白川（水）に至るまでの空間軸で、その整備にあたっては水、緑や熊本らしさが感じられ、安らぎ、憩える空間形成が求められている。

そこで、再開発事業により駅前広場や水辺空間など駅周辺全体と調和した都市空間の形成を図る。

東 A 地区再開発事業に期待される役割

導入する公共施設の基本コンセプトを取りまとめるにあたって、前記の「熊本駅周辺整備基本計画」や「東 A 地区市街地再開発事業の目的」を踏まえ、本市を取り巻く「時代の潮流」や「まちづくりの方向性」といった視点、並びに「駅前という立地性」という視点から下記のとおり整理した。

(1) 「時代潮流」・「本市のまちづくりの方向性」

熊本の魅力と活力を創造する交流機能の充実

熊本を担う人・企業を育成するための必要な機能の充実

九州の一体的発展を牽引する九州中央の拠点都市として、アジアを睨んだ

九州の情報発信

(2) 「駅前という立地性」

今後の駅周辺全体及び本市西南部地域の開発を牽引する先導的役割

熊本の陸の玄関口にふさわしい「ゲートウェイ」としての役割

九州・熊本の誇る歴史・文化・自然・観光を発信・紹介する「ロビー」としての役割

新熊本合同庁舎等とともに、副都心としての機能の一部を担う役割

情報交流施設の基本コンセプト

これらの位置づけや役割から基本コンセプトを

人、情報、文化が交流し、豊かさと活力を生み出す『情報交流拠点』

とした。

